

2022年

春の読書感想文・課題作文優秀作品

【小学部・読書感想文】

「夏に降る雪」を読んで

成瀬校 小6 N・Mさん（成瀬中央小）

この物語は、主人公の大河が東京から大阪へ引越し、戦時中の地下教室である無窮洞を舞台にした演劇に参加することになり、落ち込みながらも仲間と役をやり抜いていく話だ。

この話を通して作者は、読者にもっと深く戦争というものを知ってもらうために、多くのことを伝えたかったのだらうと思う。私は学校の授業で戦争のことについて学習したことがある。そこで、人が死ぬということをとんでも怖いと思ったことがあった。そしてこの物語を読んで、戦争は悲しいものしか残らないと言ったことを改めて知ることができた。

主人公の大河のお母さんが大河を勇気づける場面が心に残った。なぜなら、それまで演劇の練習がいやでたまらなかつた大河が、お母さんが応援してくれたことから心を変化させたからだ。また、無窮洞についての話をしてくれた岩村さんとひいおじいちゃんの場面も心に残った。なぜなら、二人とも戦争のことを伝えていく役割を持っていて、それを果たしていることが立派だと思っただからだ。

私は戦争というものを経験したことがない。しかしもし戦争が起きたら、私は戦いたい。女だから無理かもしれないけれども、道で倒れている人がいたら助ける、食べ物分け与える、それだけで岩村さんのように立派なことができると思うのだ。

この物語の結末は、大河が最後の演劇のセリフで「そう。伝えていくことがぼくたちの役割」と言い、岩村さんの話やひいおじいちゃんの話で聞いたことを生かしてセリフを作ったことが強く心に残った。私も、大河が感じたような信念に出会えたときには、自分から進んで何事も恐れずに取り組んでいきたいと思う。

【中学部・課題作文】

中山校 中2 K・Rくん（十日市場中）

原子力発電のメリットは、少量の燃料で大量の電力を作ることができ、コストも安く抑えられることだ。また、発電時に二酸化炭素を排出しないので、地球温暖化に対して有効である。その反面、事故が起きた際に放射性物質が大量に放出される危険性や、使用済み核燃料の処分方法の問題がある。東日本大震災から十年以上経過しても、原発事故による悪影響が残っており、原子力発電を继续使用する現状に疑問を感じる。

ヨーロッパ州に属する国の中で、フランスは七割以上が原子力発電であり、世界一の原子力大国である。反対に原子力発電を持たないイタリアは、一九八七年から原発ゼロの国である。しかしフランスから輸入した電力に頼っているため、各エネルギーと無縁とは言えない状況にあることを知った。自国では原子力発電所を持たないが、他国から輸入しているのなら、完全な脱原発とは言えないのではないかと思う。

二〇一六年に始まった電力の小売自由化で、消費者が電力会社を自由に選べるようになった。今では、地域でつくったエネルギーをその地域内で使おうという取り組みも注目され、災害時などにも安定したエネルギー供給が出来る。以前、ふるさと納税について調べていた時、電気が返礼品となっている自治体があることを知った。その地域から電力を供給したり、電気代が安くなったりする取り組みがあるようだ。また、風力やバイオマスなど再生可能なエネルギーが主な供給源となり、環境に優しい取り組みもある。

電力の小売自由化によって、消費者が地元や故郷の電力会社から電気を購入したり、地域による再生可能エネルギーを購入したり、多様な選択が出来るようになった。電力会社を切り替えるだけで環境に優しく、地域への貢献ができる取り組みがもっと多くの地域で増えることを期待したい。

原子力発電のメリットは、供給コストが低く済み、二酸化炭素の排出が少ないクリーンなエネルギーであるといわれている。デメリットは、自然災害や人災による影響で放射能が排出されてしまう危険があることだ。僕は原子力発電はない方が望ましいが、やむを得ず必要とされているものだと思う。その理由は、火力発電ができなくなった場合、新エネルギー発電ではまかないきれないエネルギーを原子力発電で補うことができるからだ。

資料Ⅰでは原発利用に対する各国の考え方が異なることが分かる。資料Ⅱのフランスを見ると、発電量に占める原子力の割合が約七十二%と他の国と比べても原子力にとっても依存していることがわかる。一方イタリアでは、発電量に占める原子力の割合が0%と脱原発の実現に成功している。

我が家は日当たりが良いので太陽光パネルを設置している。一般家庭四大家族の一月あたりの平均電気使用量は約四百三十六KWといわれている。我が家の一月あたりの発電量は、日照時間の短い冬でも五百KWを超え、日の長い五月では千百KWを超えている。我が家だけなら必要な電気を太陽光発電だけでまかなえるが、太陽光発電は季節や天候によって発電量が左右されてしまうため、安定した電気供給ができない。また、太陽光パネルには有害物質が入っているため、廃棄には適正な処理が必要だったり莫大な費用がかかったりする。だからクリーンな発電といわれる太陽光発電にも課題は残されている。

ぼくは住む場所ので利用可能な新エネルギーを選びたい。最近では騒音や廃棄物を電気に変えるなど、その場所ならではの発電方法が世界中で開発されている。新エネルギーの選択の幅が広がれば、火力、原子力発電を減らすことができるはずだ。それまでは、火力、水力、原子力、再生可能エネルギーによる発電をバランスよく組み合わせ、それぞれの特徴を最大限に活用することが大切だ。